

## 患者のライフスタイルにあわせた情報提供モデルの提案 —てんかんを例として—

原 一貴

てんかん患者は日常の様々な場面で制約を受けている。そのため、「医師への相談」や「インターネットの閲覧」により情報を収集しているが、その満足度は高くはない。患者の不安を取り除き、移行期医療に対する理解を促すとともに、患者が主体的に治療を選択できるようにすることを目的として、患者のライフスタイルにそって情報提供を行うモデルを提案した。

患者の情報ニーズを把握するために、web サイトと図書から資料を収集した。収集した資料から情報ニーズを抽出し、ライフスタイルに基づいて整理した。さらに、情報ニーズを満たす情報を入手できる情報源を収集し、作成した信頼性の評価項目表を用いて信頼性を評価した。評価結果と提供している情報の特異性を考慮して、情報提供に使用する情報源を選択した。患者の情報ニーズと情報源との照合を行い、患者の情報ニーズにあわせて情報の所在を案内する情報提供方法を検討した。

情報ニーズは、web サイトと家庭の医学を調査し、52 件の資料から抽出した。患者の視点から情報ニーズを整理するために、患者のライフスタイルという時間軸にそって、「病気」「診断」「医療の提供」「治療」「情報提供機関」「制度」「生活」をメインカテゴリとして作成した。さらに、サブカテゴリを作成して、情報ニーズを整理した。情報の提供を行う際に使用する情報源は、情報源の内容と信頼性の評価結果に基づいて選択して、12 個の web サイトと 3 冊の図書、3 冊の家庭の医学を得た。

情報提供モデルでは、7つのメインカテゴリから1つを選択することにより、情報提供を開始することにした。メインカテゴリを選択すると、サブカテゴリのリストが表示され、この中から情報ニーズに対応するサブカテゴリを選択すると、具体的な情報ニーズがリストされているため、1つを選択する。選択した情報ニーズを満たす情報の所在が表示される。

本モデルでは、患者の情報ニーズをメインカテゴリとサブカテゴリによって整理し、ライフスタイルに沿った形で配列することにより、患者の情報ニーズに対して適切な情報提供を行うことが可能となった。あらかじめ信頼性を評価した情報源を提供することにより、ヘルスリテラシーの乏しい一般の人であっても、信頼できる医学情報を入手できるようになった。情報の所在だけでなく、情報源の名称や作成者等の情報を提供することにより、利用者が主体的に情報を再発見できるようになった。てんかん患者の抱える不安や不満を解消し、移行期医療への理解を深めるために必要な情報を提供する方法を提案することができた。本モデルのもう 1 つの特徴は、情報源を情報単位に分けて情報ニーズと対応させたことにあり、この結果、求める情報の所在を容易に見つけることができるようになった。

(指導教員 岩澤まり子)